

石川・加茂遺跡

- 1 所在地 石川県河北郡津幡町加茂・舟橋
- 2 調査期間 第四次調査 一九九四年(平6) 四月～二月
- 3 発掘機関 (社)石川県埋蔵文化財保存協会
- 4 調査担当者 三浦純夫・藤田邦雄・浜崎悟司・柿田祐司
- 5 遺跡の種類 集落跡・道路跡
- 6 遺跡の年代 七世紀～一〇世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(津幡)

加茂遺跡が所在する津幡町は金沢市の北に接し、その西側には河北潟が存在する。河北潟は、一九六三年(昭和三八)から干拓事業が開始され、七〇年には干陸された。本遺跡は、この潟の東縁部の沖積地に立地しており、調査地点の標高は四・五m～四・八mを測る。

本遺跡は、一般国道八号津幡北バイパスの建設に先立って、一九九一年より発

掘調査を開始し、一九九四年度までに四次の調査を数えている。

四次にわたる調査で検出された主要な遺構には、道路、掘立柱建物、井戸、土坑、大溝、小溝群、柵がある。掘立柱建物は約四〇棟検出されている。主な出土遺物には、墨書土器(三〇〇点以上)や木簡、漆紙文書、帯金具、軒丸瓦、和同開珎銀銭がある。木簡は第四次調査で検出した道路から一点出土した。

道路遺構は調査区の中央部において、南東から北西に走行しており、約六〇mにわたって検出された。これは両側に二条ずつの側溝を備えており、新・旧二つの時期があることがわかった。主軸の方向は二時期ともN-27-Eである。古い時期の道路は、側溝の心々距離が約九mで、側溝から須恵器・土師器が出土している。側溝の埋没時期は八世紀末とみられる。新しい時期のものは、心々距離が約六mを測る。木簡はこの時期の西側溝肩部より出土している。側溝の埋没時期は一〇世紀初頭とみられる。

道路遺構の北半部に「落ち込み」と命名した遺構がある。これは道路側溝の埋没後に作られたと考えられ、「正月」と記した墨書土器や斎串、木製の椀・皿が出土している。

なお、道路遺構は、その位置や規模からみて能登へ向かう北陸道の駅路(北陸道能登路)と考えられる。

8 木簡の积文・内容

の木簡・墨書土器に見える「人給所」「人給」、平安時代の儀式書に見える「人給屋」などともあわせて考察されるべきであろう。また、分ち書きの左側の「□□消息後日参向而語□□^{〔奉カ〕}」という文言からは、国司の部内巡行との関わりも想定できるが、当遺跡が越中国や能登国へとむかう交通の要衝に位置していることを踏まえると、この木簡の移動が、果たして、加賀地方の中だけで完結するものなのかは判断が難しい。これらの点について、今後考えを深めていく必要があると思われる。

9 関係文献

(社)石川県埋蔵文化財保存協会『石川県埋蔵文化財保存協会年報六』（一九九五年）

三浦純夫「石川県津幡町加茂遺跡の道路遺構」（古代交通研究会第四回大会発表資料）一九九五年

(117・9 三浦純夫
森田喜久男)

富山・豊田大塚遺跡

- 1 所在地 富山市豊田本町
- 2 調査期間 一九九五（平7）五月～七月
- 3 発掘機関 富山市教育委員会
- 4 調査担当者 堀沢祐一
- 5 遺跡の種類 祭祀遺跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代・古墳時代・平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

豊田大塚遺跡は、富山市の中心部から北東方向約5kmに位置している。遺跡は、西側約1kmを流れる神通川によって形成された扇状地の中にある微高地上に立地し、標高9mを測る。



豊田大塚遺跡の調査は、店舗建設に先立ち、一五〇〇㎡を対象として実施した。調査の結果、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて形成された沼・湧水点に関連する遺構と平安時代の